植柳の風

八代市立植柳小学校　校長室便り
平成３０年１２月２５日NO．１２０

A look-back on the Yaer

毎年であるが、この時期になると、国内外の１年の重大ニュースのことが話題になり、この１年を振り返るニュース番組等が、各局で放送される。というわけで、早速だが、日曜日夕方に放送されたスペシャル番組「２０１８年くまもとこの１年～そして、新時代へ～」を視聴した。

熊本震災から２年、復興のシンボルとなっている熊本城では、７月から大天守の石垣７５９個をいったん外し、新たに１３０個の石材を加工して積み直す作業をしているとのこと。櫓の内部には、クロスダンパーという免震構造が取り入れられており、耐震化が強化されている。大天守の外観が復旧するのは、来年の秋。内部も見学ができるようになるのは、２０２１年の春とのことだった。私は、２年前の５月に、被災しぼろぼろになった熊本城を見に行っただけに、嬉しいニュースである。他にも、今年７月には、天草市河浦町崎津集落が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つとして世界遺産に登録されたことや、これまで部分開園がされていた熊本市動植物園が、１２月２２日（土）、２年８か月ぶりに全面開園したことも報じられていた。他県の動物園に預けられていた動物たちが熊本に帰り、子どもたちの歓声が再び戻ってきたことも明るい話題である。

ところで、植柳小学校にとってのこの１年も振り返ってみると、実に様々なことがあった。２月には日本の伝統話芸の一つ「落語」を味わおうと、桂伸三さんに来校いただき講演いただいた。４月に始まった新学期では、１０人の先生方が本校に着任され、新しいチーム植柳がスタートした。５月の運動会も随分お天気を心配したが、なんとか快晴の下で「最高の運動会」を実施できた。Ｉ型糖尿病と闘い、今も夢に向かって挑戦している競技エアロビックの大村詠一選手をお招きしたのは６月だった。そうそう、閘先生からグランドピアノの贈呈があったのも６月２１日(木) で、この日はクラブの発会式の日でもあった。西日本豪雨や猛暑の夏もけして忘れられない災害。８月下旬に始まった２学期だったが、１０月３０日(火) 伝統文化教育研究発表会は大きな出来事だった。２百人を超える県内外からの参加者をお迎えし、本校の研究実践を児童や地域の姿を通して披露することができた発表会だった。修学旅行や見学旅行、陸上記録会など、学年ごとの大きな行事も無事に終了したが、１２月上旬にあったいずかし集会では、これまで学習した成果が十分発揮できた機会となった。もうすぐこの２０１８年も終わるわけだが、１年を振り返ることは、回顧と反省の念を持つとともに、次の新しい年の見通すことにつながると言われる。残りわずかとなったが、これからの１週間も大切にしたいものである。

昭和歴代首相の指南役だった思想家で、教育学者　安岡正篤（やすおか　まさひろ）氏は、新しい年を迎えるにあたっての心構えを５つ述べている。私も何か一つでいいので、挑戦してみたいと思っている。

1　年頭、まず自（みずか）ら意気を新たにすべし。
2　年頭、古き悔恨（かいこん）を棄（す）つべし
3　年頭、決然滞事（たいじ）を一掃すべし
4　年頭、新たに一善事を発願（ほつがん）すべし
5　年頭、新たに一佳書（いちかしょ）を読み始むべし